

1 単元名 当事者として政治を見つめる ～予算配分を通じた価値の葛藤と調整～

2 単元設定の背景

教材観

本単元では、本校社会科が設定する子供の「当事者性」の高い状態である、「子供が新たな事実を知り、その事実に関係している人物に出会いその人の生き様や苦しさに触れることによって、子供たちの当事者性が立ち上がり、さらに様々な人物に出会っていく中で、多角的・多面的に物事を捉え、問題を解決しようとしていく姿」を目指す。それに向けて、架空の市の担当者として500万円の予算配分を検討する。市民から寄せられた「高齢者の交通支援」や「防災対策」など8つの多様な要望は、いずれも切実ながら予算に限りがあるため、すべてを叶えることはできない。予算が有限だからこそ、分配する際に社会的な見方・考え方や価値が働く。この「正解のない問い」に向き合い、「命と安全 vs 生活の充実」や「今 vs 将来」といった対立する価値観を整理したり、吟味したりする過程を通して、政治が限りある税金の中で、異なる考えを調整しながら最終的に妥当解や納得解を見つけていく仕事であることが理解できる教材である。

児童観

本学級の子供たちに政治についてのイメージを聞くと、「政治はまだ自分には遠く、興味を感じていない」「まだ子供だから遠いけれど、少し関係はある」「生活やニュースを通して身近に感じる」といった様々な意見が見られた。「国や地方の政治についての関心があるか」の質問には、肯定的回答72.8%、否定的回答18.2%、分からない9.1%であり、「現在の政治に対しての満足感はあるか」の質問に、肯定的回答45.4%、否定的回答27.3%、分からない27.3%であった。また、「政治に関する情報の収集先はどこか」の質問に、テレビ81.8%、ラジオ・新聞・インターネットがそれぞれ1.8%と、多くの子供が各種のメディアを通して政治に関する情報に触れていることが分かった。さらに、政治や選挙の身近さを10段階評価（10が最高値）で問うと、平均5.2点となっていた。

集団観

お互いの良さや違いを理解し、それを認め合うことによって共に高め合おうとする学級集団を育てる。本学級は学習意欲の高い子供が多いのが実態である。しかし、主体的に学ぶことのできる子供がいる一方で、他者から課題を与えられないと学習を始められない、他者の意見を理解しようとしにくい子供もいる。その原因として自分の意見・考えへの自信の無さ、他者の意見への共感や尊重が低いと考える。今回の価値の葛藤と調整を考える学習の過程において、自分の意見や思いを交流したり、発表したりすることで、自信をもって意見・考えを表現できたり、他者の意見に共感したり尊重できたりする集団を育成する。

指導観

子供たちは、政治を「自分とは遠い存在」と捉えがちである。しかし、身近な公園の遊具や通学路の安全といった具体的な課題も提示することで、自分たちの生活が政治的な決定と結びついていることに気付くことができる。自分の考えに自信が持てない子供も、「予算500万円」という具体的な枠組みがあることで、根拠を持って意見を表明しやすくなると考える。指導にあたり3点に留意する。1つ目は、価値観の言語化である。「なぜその順番にしたのか。」という理由を、対立のポイントである公平性、効果、緊急性などに照らして記述させる。さらに、各要望の金額に軽重を付けたり、架空の市の年齢別の人口分布も提示することで優先する要望の検討事項に深みを与える。2つ目は「揺さぶり」による吟味である。市議会議員や三原市こども部などの専門家を招聘し、子供の案に対して「その案で困る人はいないか？」といった問いを投げかけていただき、考えを再構成させる場を設ける。3つ目は、政治の本質の理解である。最終的に「全員を満足させる決定はない」「対立があるからこそ政治である」といった現実を知り、その中でも「みんなの声を聴いて慎重に進めることが大事」「様々な立場の人の状況を知ることが必要である」という決める責任についても考えさせる。

3 単元の目標及び計画（全5時間）

■単元の目標

限られた予算の配分を巡る価値の葛藤と調整の過程を通して、政治は多様な意見を調整する役割を担っていることを理解し、政治を自分事として捉え、積極的に関わろうとする態度を養うことができるようにする。

■単元の計画

第1次：市民の要望を読み取り、自分なりの「500万円予算案」を作ろう（2時間）

第2次：自分の案を提案し、他者や議員と対話して考えを吟味しよう（2時間）【本時1・2／2】

第3次：政治の本質（調整と責任）についてまとめよう（1時間）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
予算配分には多様な視点（公平性、効果、緊急性など）が必要であることや、政治の仕組みを理解している。	異なる立場（高齢者、子育て世代、商店街など）のメリットやデメリットを考え、自分の意見を適切に表現している。	正解のない問いに対して、よりよい社会を形成するための視点を獲得しようと試行錯誤している。

5 本時の学習（1/2時・2/2時）

■目標 三原市議会議員と三原市こども部の方との対話を通して、自分の予算案の不足点や、異なる立場の人への配慮の必要性に気づき、政治への当事者性を高めるとともに、政治とは何かを自分なりの言葉でまとめる。

■レジリエンスを発揮している子供の姿

対話を通して、自らの予算案についての新たな視点を獲得し、予算案を再考したり深化させたりしようとしている。

■学習過程 ※（全）（小）（個）：学習形態（全：全体の場合 小：小集団 個：個人）㊟：留意点 ㊠：評価の観点（方法）

学習事項	児童の活動	教師の働きかけとねらい	集団
0. 環境の設定	(0) 市議会議員・三原市こども部の方の自己紹介を聴く。	(0) 教師が主導し、自己紹介を簡単に行うとともに、本時のねらいを確認する。	
1. 学習課題への接近	(1) 前時までの自分の予算案と、その理由（「命を守るため」「将来のため」など）を再確認する。	(1) 自分の案の優先順位と、誰の立場を重視したかを明確にさせることで、自分の考えを再確認させる。	(個) 自分の予算案を確認することで学習への見通しをもつ。
2. 学習課題の設定	(2) 本時の課題を確認する。 予算案を考える際の新たな視点を見つけ、政治とは何かを自分なりに表現しよう。	(2) 自分で考えた予算案だが、他者（友達・市議会議員・三原市こども部）の視点を取り入れて検討することを確認する。	(全) 学習課題を学習集団全員で解決しようとする意欲を高める。
3. 学習課題の追求 （個による考察）	(3) 市議会議員・三原市こども部の方へ、自分の予算案をプレゼンする。	(3) ワークシートをもとにしなが ら、「なぜそのような順番にしたのか」を確実に伝えられるようにする。 ㊟児童4人・市議会議員1人か三原市こども部1人のグループを形成することで、対話への当事者性を高める。	(個) 自分の考えを他者に表現する。
（グループによる考察）	(4) 市議会議員・三原市こども部の方から質問を受ける。 ・「その案で切り捨てられた人はどうなりますか？」 ・「今だけを考えずに将来のことも考えてみては？」 等の質問に答える。	(4) 市議会議員・三原市こども部の方には、「批判的な意見」「考えを深める質問」をお願いし、議論を深化させる工夫をする。児童が考え込むような場면을意図的に作り、当事者意識を育むようにする。	(小) グループで意見を交流し、意見の深まり・違い・新たな視点を獲得する。
（個による考察）	(5) 予算案について再考する。対話を経て「考えが変わったか」を確認し、再度予算案について考える。	(5) 予算案を再度考えさせることで、自身の変容や深化を顕在化させるとともに、新たに獲得した視点を明らかにさせる。	(個) 自分の変化や新たな視点の獲得を自覚する。

	(1/2時間目終了)		
	(6) 市議会議員の方(1名)の予算を議論する際の悩みや「みんなの要望を100%叶えることは難しい」現実を聴く。	(6) 市議会議員の代表の方1名に、予算を議論する際の難しさと、どのようなことを留意しながら責任ある決定を下していくかをお話していただく。	(全) お話を聴く中で政治の役割などを理解する。
4. 本時のまとめと次時への発展	(7) これまでの学習を通して、自分なりの「政治とは何か」の問いのまとめをつくる。 (8) 市議会議員の方(1名)から、授業の講評を聴く。	(7) まとめをする中で、子供たちから出てくるキーワードを板書していくことで、子供たちの振り返りに生かせるようにする。 (8) 市議会議員の代表の方1名に授業の講評をいただく。その中で、政治の役割(例「政治は違う考えを調整して決める仕事」)についてのお話もいただき、子供たちに政治の役割を改めて理解させる。 ㊦授業の内容や友達の考え、市議会議員の方や三原市こども部の方との交流を通じて、政治への見方や考え方をまとめることができる。 (後日、フォームで回答)	(個) 学習課題に対しての自分の現段階の立場と思いをまとめる。